



歯科衛生士が
身につけておきたい基礎知識
CONTENTS

推薦の言葉 はじめに	2 5
1 全身の病気と口の健康	8
① 全身状態と口腔内の状態 ② 口腔内に影響を及ぼす全身状態 ③ 口腔内のチェックポイント ④ 口腔のケアと指導の実践 コラム：オーラル・フレイル／妊婦と口の健康／喫煙と口の健康	
2 高齢者と口の健康	12
① 高齢者と口の健康 ② 高齢者の口腔内の状態 ③ 高齢者の口腔内のチェックポイント ④ 高齢者に対する口腔のケアの役割 ⑤ 高齢者に対する口腔のケアと指導の実践 コラム：超高齢社会における歯科衛生士の役割	
3 糖尿病と口の健康	16
① 糖尿病と歯周病 ② 糖尿病の患者さんの口腔内 ③ 糖尿病の患者さんが歯科受診する際のチェックポイント ④ 糖尿病の患者さんの口腔のケアと指導の実践 コラム：糖尿病の合併症／妊婦と糖尿病／歯周病の治療と糖尿病／糖尿病教室	
4 心臓の病気と口の健康	20
① 心疾患と口腔衛生 ② 心疾患を有する患者さんの口腔内の状態 ③ 心疾患を有する患者さんのチェックポイント ④ 心疾患を有する患者さんへの口腔のケアと指導の実践	
5 脳血管の病気と口の健康	24
① 脳血管障害 ② 脳血管障害を有する患者さんの口腔内の状態と嚥下障害 ③ 脳血管障害の患者さんのチェックポイント ④ 脳血管障害を有する患者さんの口腔のケアと指導の実践	
6 がんと口の健康	28
① がん ② がん治療中の患者さんの口腔内の状態 ③ がん治療中の患者さんのチェックポイント コラム：がんの三大療法／化学療法（抗がん剤）／放射線療法	
7 抗がん剤と口の健康	32
① 抗がん剤 ② 抗がん剤によるお口への影響 ③ 抗がん剤治療中または予定患者さんのチェックポイント ④ 抗がん剤治療中または予定患者さんの口腔のケアと指導の実践 コラム：一般血液検査の基準値／患者さん説明用のパンフレット	
8 くすりと口の健康	36
① くすり ② くすりを服用している患者さんの口腔内の状態 コラム：MRONJ（薬剤関連性顎骨壊死） ③ くすりを服用している患者さんのチェックポイント ④ くすりを服用している患者さんの口腔のケアと指導の実践	
9 手術前の口の健康	40
① 手術と口腔衛生 ② 術前口腔内評価と準備 ③ 手術前の患者さんの口腔内のチェックポイント ④ 手術前の患者さんの口腔のケアと指導の実践	

10 移植と口の健康	44
① 移植 ② 移植前の患者さんの口腔内の状態 ③ 移植前の患者さんのチェックポイント ④ 移植前の患者さんの口腔のケアと指導の実践 コラム：造血幹細胞移植による副作用	
11 経管栄養と口の健康	48
① 経管栄養と口腔衛生 コラム：経管栄養の対象疾患 ② 経管栄養中の患者さんの口腔内の状態 ③ 経管栄養中の患者さんのチェックポイント ④ 経管栄養中の患者さんの口腔のケアと指導の実践	
12 集中治療室（ICU）における口の健康	52
① 集中治療室（ICU） ② 集中治療室（ICU）に入室している患者さんの口腔内の状態 ③ 集中治療室（ICU）の患者さんのチェックポイント ④ 集中治療室（ICU）での口腔のケアと指導の実践	
13 緩和医療と口の健康	56
① 緩和医療 コラム：緩和医療における緩和ケアと支持療法／緩和ケアチーム／緩和ケアチームにおける歯科の役割 ② 緩和ケア中の患者さんの口腔内の状態 ③ 緩和ケア中の患者さんとご家族への配慮とコミュニケーション ④ 厚生労働省の定める緩和ケア	
14 精神科の病気（統合失調症）と口の健康	60
① 統合失調症の特徴 ② 統合失調症の患者さんの全身症状（口腔内を含む） ③ 統合失調症の患者さんのチェックポイント ④ 統合失調症の患者さんの口腔のケアと指導の実践	
15 食べること、飲み込むことと口の健康	62
① 食べること、飲み込むこと ② 食べること、飲み込むことに障害のある患者さんの口腔内の状態 コラム：このような症状はありませんか？ ③ 食べること、飲み込むことに障害のある患者さんのチェックポイント ④ 食べること、飲み込むことに障害のある患者さんへの口腔のケアと指導の実践	
16 在宅歯科診療における口の健康	66
① 在宅歯科診療 ② 在宅療養中の患者さんの口腔内の状態 ③ 在宅療養中の患者さんのチェックポイント ④ 在宅歯科診療における口腔のケアと指導の実践	
17 チーム医療の実際	70
① 歯科衛生士がチーム医療に介入したきっかけ ② チーム医療に関わる人々 ③ チーム医療に歯科衛生士は必要とされています ④ 歯科衛生士がチーム医療を行ううえで心がけていること ⑤ 特に勉強しておきたいこと コラム：いろいろな職種を知ろう／他職種との関わり方	
18 例えば口腔ケアグッズ	74
院内で使用する口腔ケアグッズ／在宅介護用口腔ケアグッズ／摂食嚥下障害用口腔ケアグッズ／抗がん剤治療中の口腔のケア（当病院での一例）／ICU 入室中の口腔のケア（当病院での一例）	
医科歯科連携に必要な略語一覧	80
参考文献	82
執筆者一覧	83

3 糖尿病と口の健康

① 糖尿病と歯周病

糖尿病と歯周病は、どちらも慢性の疾患です。糖尿病を有する患者さんは、血管障害、免疫力の低下、創傷治癒不全が認められ、易感染性であるといわれています。さらに、歯周病は、糖尿病合併症の1つにあげられています。

う蝕や歯周病を予防するためには、歯科医院に定期的に受診することをすすめ、適切な保健指導を学んでもらうことが大切です。



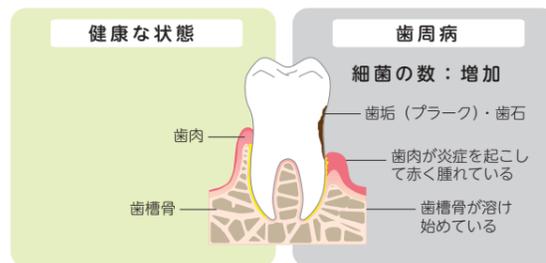
糖尿病と歯周病には密接な関わりがあります。

② 糖尿病の患者さんの口腔内

糖尿病の患者さんは易感染性だけでなく、唾液の減少により口腔内の自浄作用が低下し、さまざまな口腔内疾患に対して高いリスクを抱えています。その口腔内で見られる特徴を下の図に示します。

糖尿病患者の口腔内の特徴

- ① 唾液分泌量の低下
- ② 高いう蝕活動性
- ③ 歯肉の炎症初見と歯槽骨破壊の進行
- ④ 創傷治癒不全・易感染症



歯周病の原因は歯垢の中に存在する細菌

Point

糖尿病と歯周病は相互関係にあり、血糖コントロールが悪いと、口の中にも症状が現れます。

③ 糖尿病の患者さんが歯科受診する際のチェックポイント

問診だけでなく、糖尿病連携手帳の内容と検査値もチェックしておきましょう。

■ 既往歴および服用薬の確認

これまでの糖尿病に関する治療内容や、入院歴、栄養指導、糖尿病教室受講歴などを把握しておく必要があります。

■ 糖尿病連携手帳の有無を確認

糖尿病連携手帳には（歯周病・口腔清掃・出血・口腔乾燥・咀嚼力・現在歯・インプラント・義歯・症状・次回受診）といった情報が記載されています。来院時には持参してもらい内容を確認しましょう。糖尿病はかかりつけ医と上手な連携をとることで歯科からも改善が望めます。そのためにかかりつけ医を確認し、糖尿病連携手帳を活用しましょう。

■ コントロール状態の把握

検査値（HbA1c、空腹時血糖、食後2時間値）からコントロールの状態を把握します。合併症予防のためのHbA1c目標値は7.0%未満ですが、低血糖などの副作用を考慮して個別に設定されているため、7.0%以上の患者さんについてはコントロール状態について内科担当医に照会しましょう。

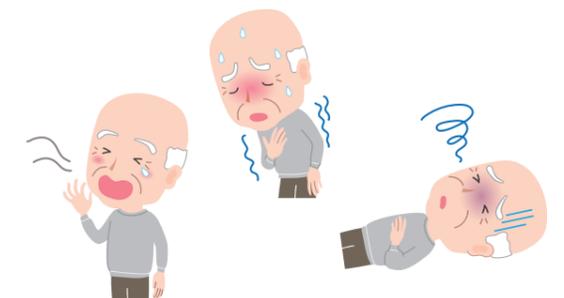
検査値と合併症予防のための目標（成人、妊婦は除く）

検査値	合併症予防のための目標
HbA1c	7.0% 未満
空腹時血糖値	130mg/dL 未満（おおよその目安）

（一般社団法人日本糖尿病学会：糖尿病治療ガイド 2016-2017 を参照）

■ 低血糖症状の有無

治療中は、特に低血糖による意識低下に注意が必要です。今までそうした経験があるか、その際、本人が対処できているかを確認しましょう。また、低血糖の状態を避けるために、空腹時の診療は控える必要があります。



生あくび、動悸、冷や汗、けいれん、意識低下は低血糖症状のサイン

HbA1c (ヘモグロビン・エイワンシー) とは?

糖と結びついたヘモグロビンが何%あるかを示す値で、採血時点から過去1～2ヵ月の血糖の状態を表しています。正常値はおおよそ6.0%未満。コントロール状態の目安になっており、合併症予防のためのHbA1cの目標値は7.0%未満とされています。

④ 糖尿病の患者さんの口腔のケアと指導の実践

計画・スケジュール

初診時、問診で確認すること

- 診断名、現在の治療内容について
- 既往歴
- 内服薬について
- 合併症について
 - 細小血管障害 (神経障害・網膜症・腎症)
 - 大血管障害 (壊疽・脳梗塞・狭心症・心筋梗塞) など

口腔のケア中に注意すること

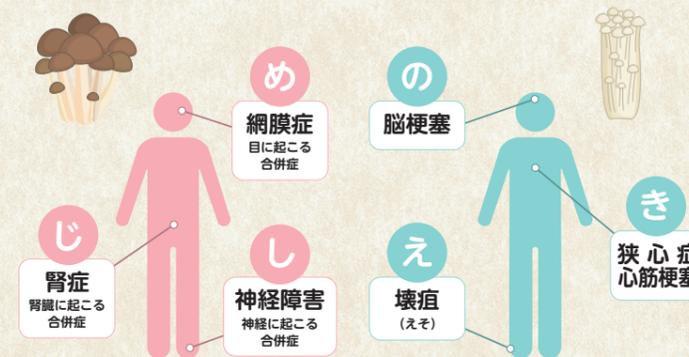
- 低血糖症状の出現：生あくび、冷汗、動悸、けいれん、意識低下。
- 易感染性のため歯周病の悪化や治癒遅延を招きやすい状態になっています。

口腔のケア後に注意すること

- 定期受診の必要性：糖尿病の合併症が発症しない状態を維持するためにも歯科定期受診が必要であることを説明します。
- 患者教育
 - ・患者さんの口腔内の現状を理解してもらいます。
 - ・内科で受けた栄養指導の内容が実践できるような口腔の健康を維持します。
 - ・禁煙・減煙を促します。
 - ・セルフケアの確立：来院し治療を受けるだけでは歯周病も糖尿病も良くならないので、セルフケアが治療成功のカギとなることを説明します。

<糖尿病の合併症>

糖尿病の合併症は下の図に示すように、細小血管障害「し・め・じ」(神経障害、網膜症、腎症)や、大血管障害「え・の・き」(壊疽、脳梗塞、狭心症・心筋梗塞)があげられます。



<妊婦と糖尿病>

妊娠時に糖尿病だった場合、正常血糖の妊婦に比べ糖尿病になる危険が7.4倍高くなるという報告もあります。特に妊娠中期以降は、血糖値が上昇しやすくなっています。診療室で妊婦さんや妊娠の可能性のある方に接する機会があれば、女性のライフサイクルを考えた視点で接したいものです。

<歯周病の治療と糖尿病>

2型糖尿病に罹患している患者さんに対して歯周治療を行うと、歯周治療を行っていない患者さんと比較して、HbA1c値が平均0.4%低下すると言われています。HbA1c値が1%下がると大血管系の心筋梗塞が14%、狭心症は12%、小血管系の微小血管障害が37%、さらに末梢血管疾患が43%リスクが低下するという報告があることからわかるように、合併症予防のために血糖コントロールは必須です。

<糖尿病教室>

糖尿病教室は、糖尿病の患者さんに糖尿病を正しく理解してもらい、適切な血糖管理ができるよう教育する場です。当院の糖尿病教室には、医師・歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士が関わっており、それぞれの視点から患者教育を行っています。また、HbA1cの値が7%を超えている患者さんには歯科受診をすすめています。

